異物混入対策整理表

原因別	対象	具体的な異物混入防止対策	対象となる異物の種類				補足･参考事項
			そ族・昆虫類	石・土砂・塵埃等	毛髪・繊維くず等	金属類・サビ等	
従事者の対策	従事者	定期の衛生教育	○	○	○	○	作業マニュアルに基づく確実な作業の徹底を図る
		作業区域ごとに責任者を配置する	○	○	○	○	施設設備の確実な点検の実施
		作業マニュアル等の実施確認者及びその記録実施担当者を定める	○	○	○	○	従事者の業務遂行を確実なものとする
	服装	ポケットのない作業用着衣		○	○		私物の持ち込み等も規制する
		長袖の作業用着衣			○		
		電石帽又はネットと帽子の組み合わせ			○		
		作業着衣の更衣は頭から足に向けて行い脱衣時は逆手順で行う			○		
		入室時に粘着ローラーがけ		○	○		
		私物の持込み禁止			○	○	
	筆記用具類	使用場所に常備し、数量等を明示しておく			○	○	使用後は、決められた場所へ戻す習慣付けを。 数量が合わない場合は徹底した捜索を行う。
		ボールペン等芯の折れないもの			○	○	鉛筆の芯や消しゴムかす等を出さない。
施設・	更衣室	私服と作業着を分けて保管		○	○		2段収納（上段：作業着／下段：私服）や別収納が望ましい
	出入口等	二重区画にする	○	○			開放状態にできない（ストッパーが効かない）ドア構造にする。
							同時開放ができないドア構造にする。
		前室を暗室化する	○				工場から直接外部へ出る場所（廃棄物の搬出口）に設備。
				○			足洗い槽の併設が望ましい。
		ドックシェルター方式にする	○	○			原材料及び製品の搬出口に設置する。
		エアカーテン･合成樹脂カーテン	○	○			ドッグシェルターが設置できない場合や区画として設置する。
							昆虫類の苦手な波長色の材質が望ましい。
		エアシャワーの設置		○	○		給排気量を計算して設置する。フィルターの管理必要。
		粘着ローラー等の備え付け		○	○		入室前に使用する。粘着面の更新頻度を規定する。
		履き替え場所を設置する		○			手指洗浄場所やエアーシャワー室の前に設置する。

設備の対策	履物	作業専用履物を用意する		○			ドライシステム化を図り、短靴作業が望ましい。
		外履き、内履きを分けて保管する		○			2段収納（上段：内履き／下段：外履き）や別収納が望ましい。
	足洗い槽	塩素消毒槽、粘着マットの設置		○			
	窓	網戸を設置する	○				開放可能な窓に。またレールの排水口にも注意が必要
		遮光･防虫フィルムを貼る	○				
	空調設備	製造室内の陽圧化	○	○			給排気量を計算して設置。エアフィルターで清浄化した空気を。
	製造ライン	垂直距離で70cm以上を確保		○			
		上部にモーター等を設置しない				○	必要であれば、落下防止カバーを取り付ける。
	異物選別台等	白色で耐久材質の物を使用する	○	○	○	○	
		作業面照度は700ルクスを確保する	○	○	○	○	
		除去した異物の専用保管容器を備える	○	○	○	○	他の容器と区別するために色や形状等を特別な物にする
		金属探知機を設置する				○	金属探知機の特性を理解し、設置と管理を行う必要がある。
	製造用器具類	破損しやすい材質の物は避ける				○	特に金属ブラシなど、重大危害を生じる恐れのある器具を避ける
作業時の対策	原料受入場	選別済み原材料を使用する場合でも使用前チェックを実施すること	○	○	○	○	
	製造室等	原材料や包装資材のダンボール等の輸送用外包装を持ち込まない	○	○	○	○	内包装の状態または専用容器に移し替えて搬入する
							輸送用外包装のダンボール、紙、布類を再利用しないこと
		工具や補修資材等は使用時以外は専用保管箱に入れて保管する				○	保管場所を明示すること
							工具類の名称及び数量も表示しておくことが望ましい
		機器等を緊急に補修する場合は必ず製造作業を停止して行う				○	応急処置用資材は食品を区別できる色、形状のものとする
							応急措置のままにせず、短時間のうちに完全補修を行うこと。